



# 浮世絵の美

平木コレクション名品展

## 企画展

平成25年8月31日[土] - 10月14日[月・祝]  
●会場/新館2階[常設展示室1・2]

江戸の庶民が日々の生活の中で楽しんだ浮世絵は、現在では日本のみならず、世界各地の美術館に所蔵され、高い評価を受けています。世界的な評価は、膨大な数の浮世絵を流出させるということになりましたが、そうした中、浮世絵を国内に留めるべく尽力した人々の存在もありました。第二次世界大戦以前の日本の3大浮世絵コレクションに数えられた「松方コレクション」「三原コレクション」「斎藤コレクション」のうち、三原・斎藤コレクションを散逸の危機から救った平木信二氏(リッカー・ミシン創業者)もその一人でした。平木氏の収集品は、昭和47年(1972)に開館した「リッカー美術館」を経て、現在は「平木コレクション」として平木浮世絵財団によって作品の保存・公開が行われています。

「平木コレクション」は、特定の時期や絵師に偏ることなく、浮世絵の歴史を体系的に通観できるように形成されているのが大きな特徴です。また、量産品である浮世絵版画にあって、抜群の保存状態を誇り、前述の「旧松方コレクション」(現在、東京国立博物館所蔵)とともに、浮世絵版画としては唯一、重要文化財指定品を含みます。本展は、6,000点に及び「平木コレクション」の中から、重要文化財・重要美術品のみ計145点を厳選するという、かつてない贅沢な内容となっています。鳥居派を中心とした錦絵誕生以前の初期の貴重な作品から、鈴木春信、喜多川歌麿、東洲斎写楽ら錦絵黄金期の巨匠たち、そして葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳ら幕末期のスター絵師までを網羅した、浮世絵の真髄を鑑賞する貴重な機会となるでしょう。(T.N.)

### 展覧会 関連イベントのお知らせ

#### 記念講演会「平木コレクションの名品をめぐって」

- 日 時: 8月31日(土)13:30 ~ 15:00
- 場 所: 研修室(定員50名)
- 講 師: 佐藤光信氏(平木浮世絵美術館館長)

※申込不要。ただし企画展観覧券が必要です。

#### 学芸員によるフロアレクチャー

- 日 時: 9月7日(土)、28日(土) 14:00 ~ 15:00
- 場 所: 展示室

※申込不要。ただし企画展観覧券が必要です。

#### 連続講座「浮世絵をつくろう」

- 日 時: 10月5日(土)、6日(日)10:00 ~ 15:00
- 場 所: 中学生以上10名(2日間とも参加可能な方)
- 定 員: 南館アトリエ1
- 材料費: 1000円程度。 ※申込は、当館普及係まで

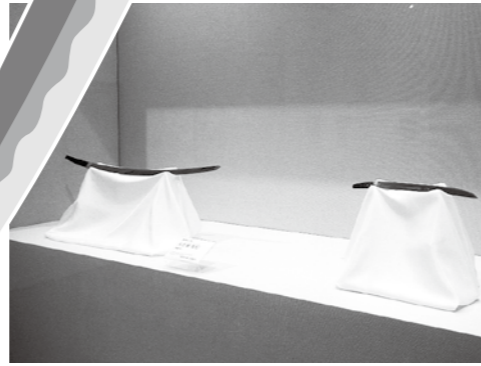
## 東雲神社の刀剣の展示

春の所蔵品展では、松山市東雲神社の所蔵品で当館へ寄託された国の重要文化財の刀剣2口を初公開しました。東雲神社は松山藩11代藩主により、松山歴代藩主を祀るために、文政6年松山城長者ケ平に社殿を造営したことに始まります。

太刀「助包」は、鎌倉時代の備前国一文字派の名工助包の作です。豊臣秀吉から拝領したものと伝えられ、松山藩士山本権兵衛義安の父山本義純が所用し、明治時代に山本家が奉納しました。

短刀「国弘」は、南北朝時代の筑前国左一派の名工国弘の作です。刀身には護摩箸と梵字が彫刻されています。旧松山藩主が奉納しました。

平成23年に国庫補助事業による文化財修理を終え、今回が初お披露目となりました。美術館には貴重な文化財を公開するとともに、後世に守り伝えていくという大きな責務もあります。当館は国指定史跡松山城堀之内に所在しますので、このたび松山藩主ゆかりの文化財を展示する機会を得たことは、歴史的な縁を感じます。(H.I.)



## 150 作品追加

### 学芸レポート 「平成24年度 新収蔵品展」より

昨年(平成24年)度、寄贈や購入により、当館には新たに約150件の作品がコレクションに加われました。地方の公立美術館の重要な活動として、地元ゆかりの作家・作品を柱として収集し、調査研究・評価していくことがあります。今回の新収蔵品たちも、これまでのコレクションにさらに厚みと広がりを与える作品ばかりです。これらは4月9日から6月30日までの「平成24年度新収蔵品展」にてお披露目しました。

古くは、現存作品がほとんどない江戸時代中期の松山藩絵師・豊田随園、随可父子に始まり、明治末～昭和戦前期に人気を博した新派劇俳優・井上正夫のユニークな書画、当館コレクションの最大の柱となっている、高度経済成長期においてあるべき未来の日本像を表現したイラストレーター・真鍋博が世界各地で収集したベル、国際的な前衛集団「具体美術協会」に愛媛から参加した坪内晃幸の作品群、昨年当館で開催したライブペインティングにおいて制作された気鋭の日本画家・福井江太郎の大作などなど一バラエティに富んだ内容となりました。

これらのニューカマーたち、今後それぞれに調査研究や定期的な展示公開を重ねていくことで、当館の重要な「顔」の一つになっていくことでしょう。(T.N.)



何ともかわいらしい真鍋博収集のベルたち



横幅8メートル! 壮大な福井江太郎作品

### ウマのひとこと (編集後記)



25年度は企画展を5本予定しております。特撮博物館展でスタート。所蔵品展では、様々なテーマで展示を行います。春には昨年度に収集した新収蔵品展を開催し、あわせて初めて人間国宝・高橋貞次の刀剣も展示しました。企画展のチケットには所蔵品展のチケットもついておりますので、ぜひ企画展と合わせてご覧ください。(H.I.)

# Canforo No. 46

## 企画展

The 60th anniversary of a debut 画業60周年記念

# 松本零士展

2013.7.6 SAT - 9.1 SUN  
開館時間 9:40 - 18:00 (入場は17:30まで)  
月曜日休館 (ただし、7/15(月・祝)、8/5(月)は開館し、7/16(火)、8/6(火)は休館)

ご来場先着1万人に 当展特製シールプレゼント

松本零士作品のフィギュアも展示 (協力: ヒーロー☆スター)



(宇田戦艦ヤマト) © 松本零士



大洲市立新谷小学校 壁画除幕式(2012年7月) 大洲市提供

### 展覧会 関連イベントのお知らせ

#### 松本零士氏 講演会

- 日 時: 7月25日(木)14:30 ~
- 場 所: 松山市総合コミュニティセンター カメラホール

※要申込。定員になり次第受付終了  
※申込方法はあいテレビホームページで確認

#### 連続講座「コマ撮りアニメを創ろう」

- 日 時: 7月28日(日)、8月4日(日) 10:00 ~ 15:00
- 場 所: 南館アトリエ2
- 対 象: 小学4年生以上(15人) ※2回とも参加できる方
- 材料費: 500円程度

※申込締切: 開催日の前日(先着順)  
※申込は、当館普及係(TEL089-932-0010)まで

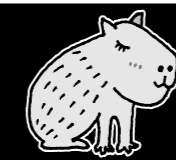
#### 美術講座「SFと日本の美術」

- 講 師: 当館学芸員
- 日 時: 8月17日(土) 14:00 ~
- 場 所: ハイビジョンギャラリー

※申込不要。参加無料

## 愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内  
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511  
http://www.ehime-art.jp/



つぶやき

様々な人の手を経、さまざまな人の思いを集めながら、一つ一つの作品は展示という形に結実していきます。展示とはまさに人とモノの出会いの集積なのです。そこから生まれる面白さを各館の皆様といかに共有できるか...今年もがんばります。(T.I.)

執筆者  
(T.I.) 稲田 哲也 (H.Sh.) 嶋原 悠  
(S.K.) 梶岡 秀一 (M.K.) 児玉 正人  
(N.T.) 武田 信孝 (R.N.) 野口 理佳  
(T.N.) 長井 健 (A.T.) 田代 亜矢子  
(H.S.) 杉山 はるか (H.I.) 石岡 ひとみ

# カンフォロ Canforo No.46

## ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展 パリの夢 モラヴィアの祈り

企画展



アルフォンス・ミュシャ(ヤロスラヴァの肖像)  
1927-35年頃 油彩・カンヴァス 73x60cm ミュシャ財団蔵  
©Mucha Trust 2013

平成25年10月26日[土] - 平成26年1月5日[日]

花と女性をモチーフに、麗麗な描写力、繊細な色彩感覚を活かして独自の作品世界を創造し、画家、イラストレーター、グラフィックデザイナーとして19世紀末のパリを魅了したアルフォンス・ミュシャ。その優婉な作風は日本でも高い人気を誇っています。

現在のチェコ共和国モラヴィア地方に生まれた彼は、パリ演劇界の奇才サラ・ベルナル主演の芝居を宣伝するポスターの成功により、アール・ヌーヴォーの時代を代表するスター的存在となりました。街行く人を非日常の世界へと誘う演劇ポスター。会食に臨む人々の気分を高める美しいメニュー。粋な女性を一段と輝かせる装飾品。異邦人でありながらパリの夢を日夜紡ぎ出し続ける間も、国際政治の荒波に翻弄され続けた祖国への想いを胸に秘めていた彼は、故郷の野辺に咲くひな菊や伝統的なチェコの民族衣装姿の女性像などを画中にさりげなく描き込むこともありました。やがて、大いなる決意のもとに帰国し、チェコ人の歴史、スラヴ民族の歴史と向き合い、人々の苦悩や希望、願い、祈りに形を与える仕事へ情熱を傾けていきます。

このような彼の多面性を意識しながら作品世界の巖に分け入り、創作活動のバックボーンにも迫ろうとする本展は、彼の作品の保存管理とプロモーションを主な目的として1992年に発足したミュシャ財団の全面協力のもとに実現したものです。ミュシャの表現者としての魅力、人間的魅力を再発見して頂ければ幸いです。(N.T.)

# Mucha



所蔵品展

## 動物画で見る日本画史

平成25年7月12日[金] - 8月18日[日]

近年、各地の美術館で動物を描いた絵画を特集した展示が行われています。当館でも度々さまざまな形で動物画の展示を企画してきましたが、今回は、動物らしくない動物を描いた作品も交え、江戸時代初期から現代まで日本画の歴史を軽くたどることができるように展示を構成し、8月18日(日)まで、当館2階の常設展示室一において開催します。

動物らしくない動物...というの妙な話ですが、簡単に言ってしまうと想像上の動物ということです。例えば、江戸時代後期から明治初期にかけて活躍した今治出身の画家、沖冠岳が描いた《百狸々図》では、朱色の髪をのびした人々の大群衆が山水の中を大行進していますが、この人々は人間ではなく、「しょうじょう」と呼ばれる想像上の動物です。同じく沖冠岳の作品《旗幟図》には一見、どこ

にも動物が描かれていないように思われるかもしれませんが、幟の中に龍が描かれています。鯉が滝を昇って龍になるという「登竜門」の故事を踏まえるなら、これが五月の節句の鯉幟であると判ります。

もちろん動物らしい動物の絵もご覧いただけます。江戸時代初期の松山藩の絵師、松本山雪の《雄鶏図》から、江戸時代後期の宇和島藩の絵師、大内鮮圃がニホンザルの大群を大滝の周囲に配した《群猿百態》、さらには近代の巨匠、小林古径が愛犬を優美に描いた《郊野》、そして現在、世界を舞台に御活躍中の福井江太郎さんのダチョウ画の代表作まで、日本画史の大体の流れをたどりながら、実在の動物と架空の動物のさまざまな姿を楽しんでいただければ幸いです。(S.K.)



沖冠岳《百狸々図》

つぶやき



自転車まで往復20kmを通勤し始めて、道路脇の凸凹に気づき、自転車をこよなく愛する人の気持ちもわかってきました。みなさん、まず美術館をのぞいてみてください。新たな発見と感動がありますよ(M.K.)



## 企画展 レポート 館長 庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見る昭和平成の技

映画監督・庵野秀明が子どものころよりこよなく愛し、その創作の原点ともなった数々の特撮作品。これらの作品の中で活躍したミニチュアや、それらの元となったデザイン画などの資料は、様々な分野の職人の手仕事の賜物であり、継承していくべき日本の文化のひとつと言えるでしょう。

ところがCGが主流となった現在、ミニチュアによる特撮は岐路に立たされており、これらの資料自体も十分に収集・保管されていないのが現状です。こうした状況を踏まえ、ミニチュアによる特撮の価値や魅力を伝えたい、そして後世に遺したいという強い信念をもって企画されたのが本展でした。

ゴジラ、ガメラ、ウルトラマンに代表される様々な作品の貴重な資料そのものを楽しんでいただくにとどまらず、オリジナル特撮短編映画「巨神兵東京に現わる」を副館長・樋口真嗣監督のもと制作し上映、そしてそのメイキングをも限なく紹介し、改めてものづくりの原点に触れた多くの方に共感していただきました。また、実際に映画のセットで使用されたミニチュアを用いて飾られたステージでは、来場者自身がヒーローや怪獣となった気分ですら自由に歩いたり撮影を楽しむことができ、特撮の醍醐味を体感していました。(H.S.)



## 連続講座 「ミニチュア特撮特別授業 -あなたと学ぶミニチュア特撮-」

連続講座の本年度第一回目として、GWの5月5日、6日にミニチュアの制作を行いました。特撮展のイベントとしての位置づけもあり、特撮美術を担当した三池敏夫監督と、ミニチュアの制作を担当したマーブリング・ファインアーツの堀礼法氏を講師に迎え、充実した講座となりました。

主な内容は、まず各自が木をアルミ線やグルーガン、緑に着色したスポンジなどを用いて一本ずつ制作しました。次に自動販売機や電柱、ビルの屋上に設置する貯水タンクなどを制作し、バラエティに富んだ材料で制作が進みました。最後に、参加者が制作した装飾品を既存のビルや民家と組み合わせ、一つの街を完成させて記念撮影を行いました。

三池監督と堀氏のプロの技と的確な指示、そして参加者一人一人への細かい心配り、そこにみんなの熱い思いが合致して、心に残る充実した講座となりました。ありがとうございました。(M.K.)

# 好評御礼 特撮博物館

館長 庵野秀明  
ミニチュアで見る昭和平成の技  
4/3 - 6/23



## Column 作品保存の おはなし 作品整理

現在、美術館では、杉浦非水と真鍋博という愛媛県を代表する図案家とイラストレーターの作品整理をしています。美術館が作品を収蔵したのは、かれこれ前の話なのですが、膨大な作品を入手しており、地道な作品整理が今も続いています。

作品整理と一言で云っても、様々です。1点ずつ写真を撮影し、採寸、所蔵番号の確認、題名、材質を確認し、状態をチェック。それを台帳に記載します。また、小品が多いので、一点ずつ小袋を作成し作品を収納。それを更に中性紙の紙箱に収納して分かり易く整理しています。

個人のお宅でも作品台帳のようにきちんと整理されておられる方も居られますが、作品を新聞紙や段ボールに挟んで居られる方を良く見かけます。紙に挟むことで湿度調整と汚れ防止にはなるのですが、どちらも酸性紙故に、長年の保管の中で作品が黄ばんで、本紙自体を傷めます。中性紙の紙(和紙など)に挟み、できれば中性紙の箱に入れて保管し、天気の良い日に風通しをしてみてもいいでしょうか？また、大事な品を写真にとり、自分だけの所蔵台帳を作ってみてはいかがでしょうか？！(A.T.)

## アトリエ 同好会

アトリエでは、1年を通じて1つの種目を探究する同好会を開催しています。今年度は「版画」と「藍染」です。それぞれ月に一度(版画：第3日曜日・藍染：第2日曜日)、参加者同士で情報交換をしながら制作活動を楽しんでいます。

アトリエ1で行われている版画では、木口木版、コラグラフ、エッチング等、参加者それぞれが多様な版種にチャレンジしており、見学するだけでも版画への理解が深まります。刷り上がりを確認する瞬間は毎回わくわくドキドキ。周りの参加者も集まって小さな緊張感を共有します。また、悩んだときにはアドバイスをもらってさらに工夫、彫りを加えてみたり、インクの色を変えてみたりしながら納得のいく作品に仕上げています。

アトリエ2で行われている藍染では、アトリエにて体験できるインド藍だけではなく、夏場の生葉染めに向けて、個々が藍を栽培中。多く採取できれば、沈殿藍や多色染めにもチャレンジします。(夏場は不規則開催になる可能性があります。)生葉のない冬場には沈殿藍や煮染め、型抜きにもチャレンジします。ジャパンプルーと云われる藍色をご自身で染めてみませんか？興味のある方はお問い合わせください。(A.T. R.N.)



## Information

### 「洲之内徹と現代画廊」 1/25(土)~3/16(日)

松山出身の美術エッセイスト、小説家、画廊主・画商であった洲之内徹の生誕100年を記念する展覧会です。本展では、宮城県美術館所蔵の洲之内コレクションに加えて、「現代画廊」で開催した展覧会に出品した画家の作品などを紹介します。町立久万美術館(久万高原町)と共同開催

### 所蔵品展案内

- 「写生旅行のたのしみ」7月12日~8月18日
- 「エヒメノタマビ」7月12日~10月27日
- 「武智光春コレクション 福田平八郎-夏・秋の風物」7月12日~10月27日
- 「ヨーロッパ美術の名品：フェミニン・ビューティ」7月12日~10月27日

ご利用案内 ■開館時間 9:40~18:00(入室は17:30まで)  
\*企画展及び貸展については、入室時間が異なります。  
各展覧会のページでお確かめください。  
■休館日 月曜日  
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日  
年末年始は12/29~1/3が休館日)

愛媛県美術館  
〒790-0007 愛媛県松山市堀之内  
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511  
http://www.ehime-art.jp/

